

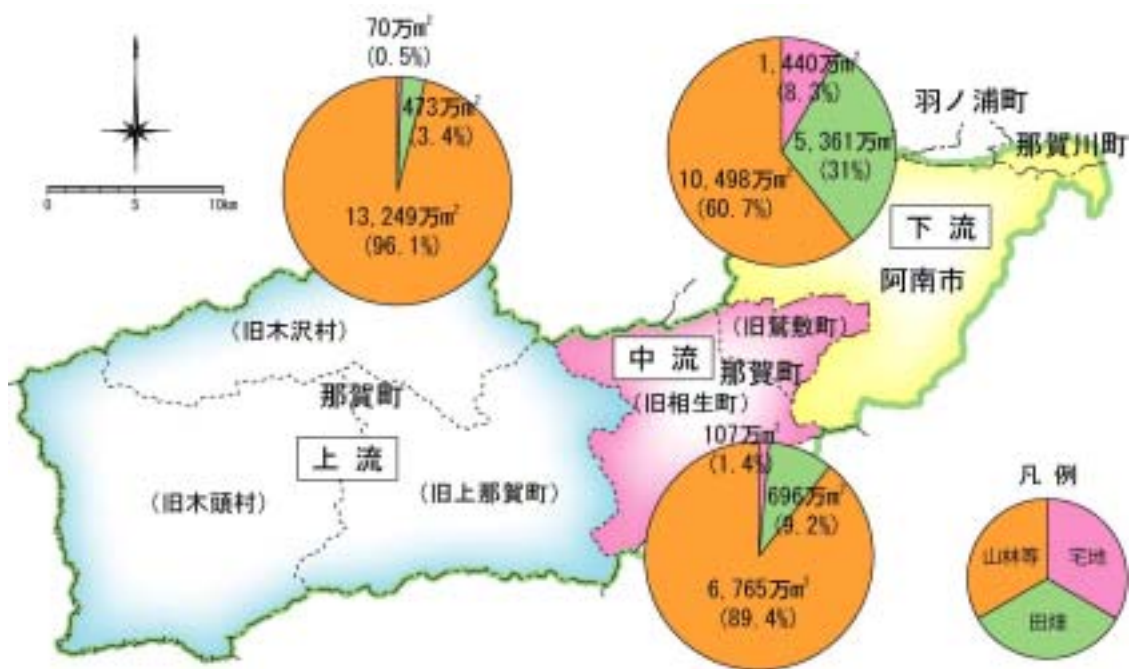
3 . 流域の社会状況

3 - 1 土地利用

那賀川流域の地目別面積構成は、山地部が92%を占めている。この山地部のほとんどは、針葉樹主体の人工林及び広葉樹主体の天然林であり、民有地においては、スギに代表される針葉樹の人工林が約70%を占めている。

また、平地はわずか8%にすぎず、そのうち59%が農地である。

参考までに流域関係市町村内の民有地の土地利用状況を 図3 - 1に示した。



出典：平成14年徳島県統計書

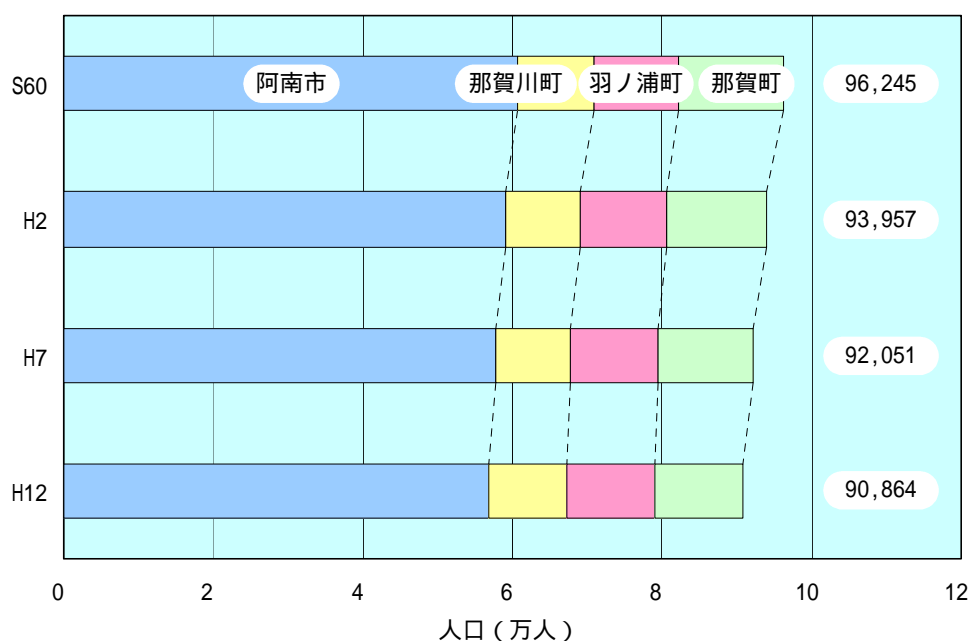
図3 - 1 那賀川流域関係市町村土地利用状況

3 - 2 人口

那賀川流域は、阿南市、那賀川町、羽ノ浦町、那賀町、小松島市、勝浦町、日和佐町の2市5町の7市町からなっている。

これら7市町のうち、流域のごく一部を占める小松島市、勝浦町、日和佐町を除いた4市町の人口は約91,000人（平成12年国勢調査）であり、徳島県全体の約11%を占める。また、那賀川流域内の市町人口推移を見ると、近年5ヶ年の人口（国勢調査）はわずかに減少傾向にある。

なお、流域内における人口は約58,000人（平成7年河川現況調査）である。



出典：国勢調査

図3 - 2 流域内市町人口

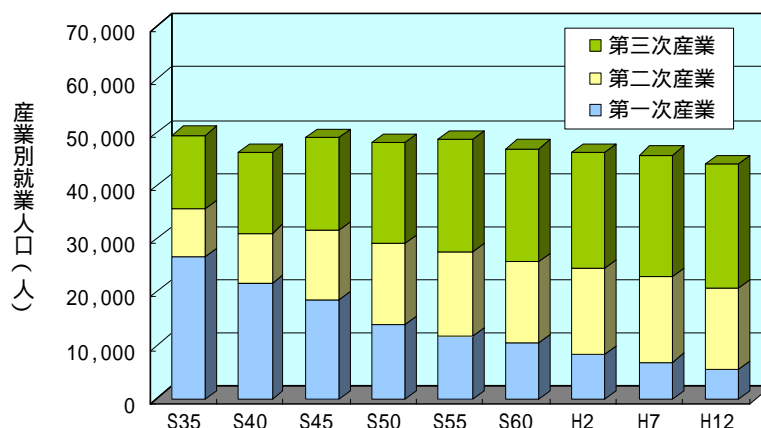
3 - 3 産業、経済

那賀川下流部の平野の成り立ちは比較的新しく、西暦900年頃にはその半分が入江の状態であったといわれている。しかしながら、その後陸地化が進展し、1400年頃には低湿地が次第に草生地や水田に変貌しはじめた。網目状に流れていた流路も、那賀川本流の固定化に伴って徐々に陸地化し、水田等へと変わっていき、江戸時代以降は水田開発の目的から、「万代堤」の築造等治水事業が積極的に進められた。昭和4年からは国による直轄改修事業が始められ、連続堤防により那賀川の流路は固定されて、那賀川下流部の平野が徳島県有数の穀倉地帯となるに至った。

昭和25年には、那賀川の洪水調節、農業用水の供給、発電を目的とした那賀川総合開発が開始され、昭和31年には長安口ダムが完成し、阿南市を中心とする下流部の経済的発展がもたらされた。

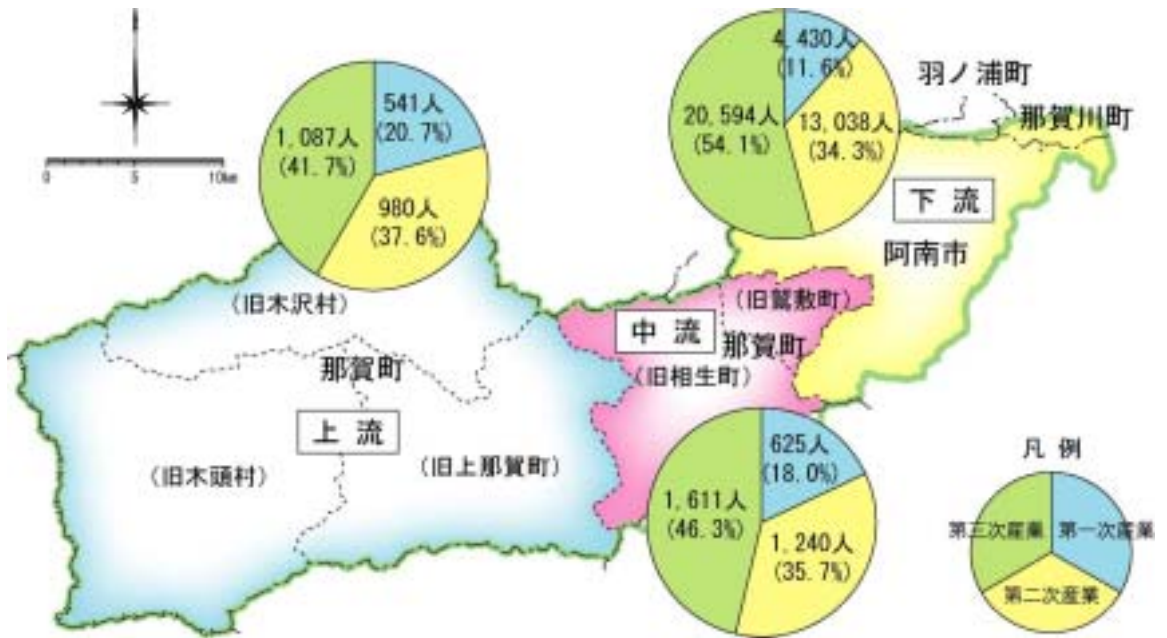
流域の産業構造は、下流部の多くが水田地帯で県内の主要な穀倉地帯となっており、米の生産量は徳島県の約32%を占めている（平成15年 徳島県統計書）。中上流部においては林業が盛んで、林業総生産額は徳島県の約26%を占めている（平成14年度市町村民所得推計）。また、河口部においては、昭和39年に新産業都市に指定されて以来、主に製紙、化学工業製品、製材、木工等が発達している。製紙業は日本の生産量の約4%、四国の生産量の約22%（四国第二位）を占めており（平成15年度紙・板紙統計年報）特にRO紙（逆浸透膜支持体紙）は世界シェアの約70%を占め世界一である。さらに、化学工業製品のうち、発光ダイオード[LED(GaN系)]、蛍光体についても世界の生産の約40%を占め、世界一を誇っている。また、ベニア合板用プレス機械の生産は国内シェア50%の日本一である。近年においては、辰巳工業団地への企業進出、橋湾における石炭火力発電所の運転開始等の動きが見られている。

辰巳工業団地は、徳島県南部の産業活性化に資するために開発された総面積126haの工業団地で、昭和43年の用地買収着手に始まり、平成8年に売却を完了した。進出企業数は8社で、平成16年の工業出荷額は徳島県全体の約11%を占めている。



出典：国勢調査

図3 - 3 産業別就業人口流域合計の推移



出典：平成12年国勢調査

図3 - 4 産業別15才以上就業者数

中上流部の林業



辰巳工業団地の経年変化

昭和51年



下流部の穀倉地帯



平成7年



橘湾火力発電所



平成16年



3 - 4 交通

那賀川の河口部には徳島県南部の中心的役割を担う阿南市を擁し、沿川にはJR牟岐線、国道等の基幹交通施設があり、徳島県南部から高知県へと至る交通の要衝となっている。

現在この地域を通る主な幹線道路として、徳島と高知を室戸岬経由で結ぶ一般国道55号線が那賀川流域海寄の羽ノ浦・古庄・富岡を通過しており、また、阿南から石立山の四ツ足峠をって高知へぬける一般国道195号線、那賀町（旧木頭・旧木沢両村）を南北に通過して、県南部と吉野川流域、さらには高松とを結ぶ一般国道193号線がある。

これらは、地域住民の日常生活や地域開発に大きな役割を果たしており、その他の道路は流域の市町からこれらの骨格となる幹線道路へのアクセス道路となっている。

なお、現在一般国道55号阿南道路においては、一部供用を行いながら、完成供用をめざして工事が進められている。

一方、水上交通では近年の船舶の大型化に伴い、入港水深の問題から、現在では出島川・派川那賀川が、それぞれ地方港湾中島港、富岡港として利用されているに過ぎず、これら港湾への年間入港数は、中島港で約190隻、富岡港で約1,700隻程度である。（平成14年徳島県統計書）

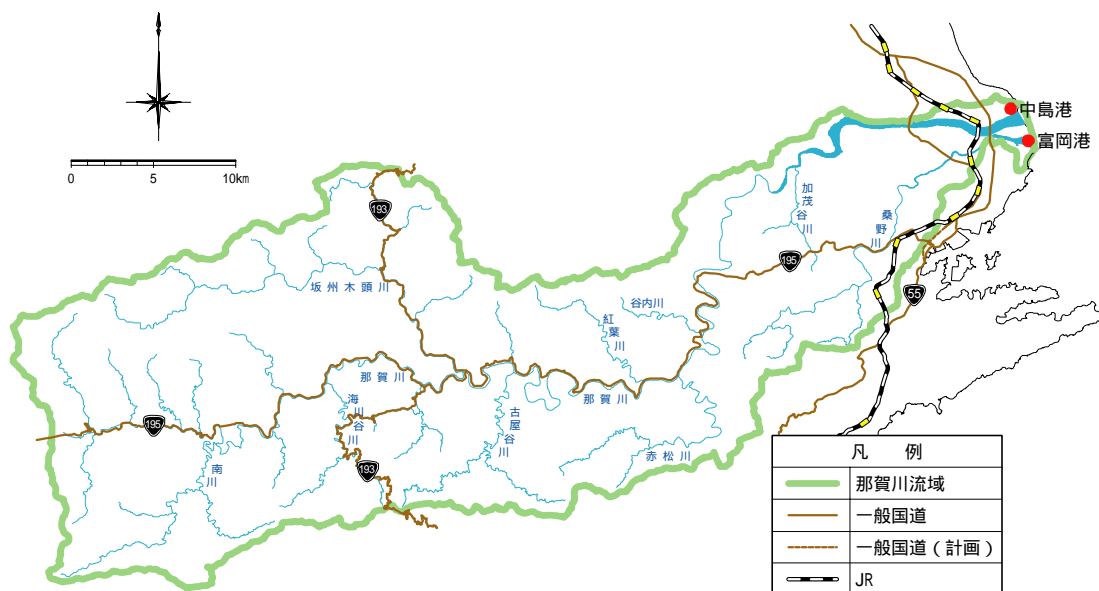


図3 - 5 那賀川流域の主要な陸上交通